# 小嶋悠紀の
# 特別支援教育
# 究極の指導システム 3

小嶋悠紀　著

トークライン BOOK
教育技術研究所

大切なことは長期戦の覚悟を決めることだ。
長い時間がかかるので、支援を長く行っていく必要がある。
すぐに改善を求めないことだ。
すぐに結果が出ると思わないことだ。
苦しさと辛さは、長い時間をかけてケアされていく。覚悟をしっかりともとう。

（「二次障害のアセスメントと対応」より）

# 目次

## 第1章　発達凸凹のある子供のアセスメントスキル12＆12の対応法


対応法1　聴覚ワーキングメモリのアセスメントと対応①……8
対応法2　聴覚ワーキングメモリのアセスメントと対応②……12
対応法3　集団行動のアセスメントと対応……16
対応法4　こだわり行動のアセスメントと対応……20
対応法5　多動のアセスメントと対応……24
対応法6　衝動性のアセスメントと対応……28
対応法7　所持の困難性のアセスメントと対応……33
対応法8　読みの困難性へのアセスメントと対応……37
対応法9　算数の困難性へのアセスメントと対応……41
対応法10　対人関係の困難性のアセスメントと対応……45
対応法11　こだわり行動の困難性のアセスメントと対応……50
対応法12　二次障害のアセスメントと対応……54

## 第2章　普通学級で使える「ユニバーサルデザイン&合理的配慮」


合理的配慮1　出会いのユニバーサルデザインと合理的配慮……60
合理的配慮2　「立ち歩き」へのユニバーサルデザインと合理的配慮……64
合理的配慮3　「多動」へのユニバーサルデザインと合理的配慮……68
合理的配慮4　「こだわり」へのユニバーサルデザインと合理的配慮……72
合理的配慮5　「怒り」に対するユニバーサルデザインと合理的配慮……76
合理的配慮6　「衝動性」に対するユニバーサルデザインと合理的配慮……80
合理的配慮7　「見通し」をもたせるユニバーサルデザインと合理的配慮……84
合理的配慮8　「対人関係構築」のためのユニバーサルデザインと合理的配慮……88
合理的配慮9　「ICTと合理的配慮」のためのユニバーサルデザインと合理的配慮……92
合理的配慮10　「集団適応」のためのユニバーサルデザインと合理的配慮……96
合理的配慮11　ASD児童対応のユニバーサルデザインと個別の合理的配慮……100
合理的配慮12　LD児童対応のユニバーサルデザインと個別の合理的配慮……104


## 第3章　発達障害のある子供をさらに伸ばす1年の支援プラン！


支援プラン1　出会いからラポールを作る！　信頼関係構築支援プラン……110
支援プラン2　連休後も伸びる！　得意を見付けて伸ばす支援プラン……114
支援プラン3　宿題どうする？　家庭学習支援プラン……119
支援プラン4　夏休みの生活を整える長期休みプラン……123
支援プラン5　立て続けに行われる行事に対応する支援プラン―運動会編……127
支援プラン6　立て続けに行われる行事に対応する支援プラン―音楽会編……131
支援プラン7　うまく絵が描けない！　図工への支援プラン……135
支援プラン8　計算が苦手！　への支援プラン……139
支援プラン9　保護者との合意形成の支援プラン……142
支援プラン10　「漢字が苦手」への支援プラン……147
支援プラン11　学年末に向けての予告支援プラン……151
支援プラン12　来年度でも大丈夫！　移行支援プラン……156
あとがき……161

対応法1

# 聴覚ワーキングメモリのアセスメントと対応①

聴覚情報が八〇パーセントの学校生活を、どのように支援するか。

学校生活を送る上で「聴覚情報をいかにキャッチするか」は重要なスキルの一つである。

ＷＩＳＣなどの検査でも聴覚ワーキングメモリ（以下ＷＭ）を測っているように、様々な場面で必要なスキルでもある。



## 1　アセスメントスキル（聴覚ＷＭが弱い子供をこう見抜く）

**①　頻繁に聞き返してくる**

頻繁に聞き返してくる子供は、聴覚情報をキャッチできる容量が少ないことが予想される。

**②　教師の話でボーッとしていたり、話の最中に手いじりをしたりしている**

ちょっと長い話になると、ボーッとしたり、手いじりをしたりしてしまうのも、その子の聴覚ＷＭの容量から溢れ出ている可能性がある。

たくさんの聴覚情報をキャッチできないので、そのような行動を起こして自分の脳を守っていると捉えることができる。

**③　あまり話や発言などが上手でない**

聴覚入力⇔音声出力は極めて結び付きが強い脳の回路である。

聴覚ＷＭが弱い子供の多くは、音声出力（話す）も弱いことが多い。

ちょっとおとなしめで、発言が苦手な子供がいた場合、聴覚ＷＭも弱いのではないかと思って対応するのが良い。

## 2 アセスメントから対応へ

**① 簡潔に話をする**

ＡＤＨＤではないが聴覚ＷＭの弱い子供は、教室の中にたくさんいる。

まずは、先生が「簡潔に話をする工夫」をすることである。

「テーマは一つに」「話題を追加しない」など、とても重要な対応になる。

**② 指示は「一〇文字以内を目指す」**

聴覚ＷＭが弱く、教師の指示が受け取れずに困っている子供も、非常に多くいる。

最大の原因は、教師の指示が長すぎることである。

私は、「教師の指示は一〇文字以内を目指すと聞きやすくなる」とアドバイスをしている。目指すだけでもかなりの効果があるので、お試しいただきたい。



**③ 大切なこと、子供の脳に残しておきたい情報は三回繰り返す**

大切な情報は、三回繰り返して伝えてあげる。三回目でやっと頭に入る子供もいるので、三回目を一番優しい言い方にするのがポイントである。

**④ 全体の後に個別に音声入力支援**

学級全体に話や指示をした後に、その子が分かっていない表情をしていたり、動けていなかったりする場合、個別に音声情報を入力（話や指示）してあげる。

聞き逃しは集中力の無さではない。脳の癖によって、どうしても先生の声を拾えないのである。優しく声をかけるよう心がけてほしい。